

北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻

美術・デザインコース

令和2年度 入学試験問題

(岩見沢校 前期日程)

検査A「構想デザイン 1」検査問題

北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻
美術・デザインコース
令和2年度 入学試験問題
(岩見沢校 前期日程)
検査A「構想デッサン 1」検査問題

問題

与えられたモチーフを卓上に配置し、触覚に強く訴える画面を制作しなさい。

- ・与えられたモチーフは自由に加工しても良い。
- ・画面位置は縦横自由とする。

北海道教育大学 芸術・スポーツ学科 美術文化専攻

書画・工芸コース

令和2年度 入学試験問題
(岩見沢校前期日程)

検査A〔臨書〕検査問題

北海道教育大学 芸術・スポーツ学科 美術文化専攻
書画・工芸コース

令和2年度 入学試験問題
(岩見沢校前期日程)

検査A〔臨書〕検査問題

【問題Ⅰ】 次の課題を、半紙に臨書しなさい。

高野切第一種「ひたちうた

つくばねのみねのもみぢばおちつもり

しるもしらぬもなべくかなしも」

【問題Ⅱ】 次の課題を、画仙紙半切に臨書しなさい。

賀蘭汗造像記「廣川王祖母太妃侯。爲亡夫侍中使」

【問題Ⅲ】 次の課題を、画仙紙半切に臨書しなさい。

祭姪文稿「余時受命。亦在平原。仁兄愛我。」

【問題Ⅳ】 次の課題を、画仙紙半切に臨書しなさい。

十七帖「五帝以来備有。畫又精妙。甚可觀也。」

【問題Ⅴ】 次の課題を、画仙紙半切に臨書しなさい。

木簡「放又不以死駒付永」

※与えられた課題を使うこと。

【問題 I】

山崎から

はるのきねんきふらはおらるる

しきわんたあそびのうら

【問題Ⅱ】



【問題Ⅲ】

山作郡金時受命之在率
原 兌愛我思得尔傳言尔既
歸止爰開土門之門既開先威



【問題IV】

玉帝以未備有患又精
妙不可名觀也波有妙
者不名因以筆取富可

【問題V】

放
又
示
以
死
廟
付
乳

北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻
書画・工芸コース

令和2年度 入学試験問題

(岩見沢校 前期日程)

検査A「静物デッサン」検査問題

問題

与えられたモチーフを自由に配置し、デッサンしなさい。

※ 画面の縦位置、横位置は自由とする。

北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻

メディア・タイムアートコース

令和2年度 入学試験問題

(岩見沢校 前期日程)

検査A「構想デッサン 2」検査問題

北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻
メディア・タイムアートコース
令和2年度 入学試験問題
(岩見沢校 前期日程)
検査A「構想デッサン 2」検査問題

問題

別紙の物語を読んで、
そこから想起されるイメージを与えられたイラストボードに、自由に描きなさい。

※イラストボードの縦横は自由に決めること。

<ひとりの男がいた>

別紙

ひとりの男がいた。クズネツォフという名前だった。あるとき、彼の家にあった腰掛けがこわれた。彼は家を出た。それは店に行って、腰掛けを修理する木工用の接着剤を買うためだった。

クズネツォフが建設中の家のそばを通りかかったとき、上から煉瓦が落ちてきて、クズネツォフの頭に命中した。

クズネツォフは倒れたが、すぐにぴよんと立ち上がって、頭にさわってみた。頭には巨大なたんこぶができていた。

クズネツォフはたんこぶをなでながら言った。

「私はクズネツォフ氏だ。私は家を出た。それは店に行って……、行って……、行って……。ああ、何ということだ！私は何のために店に行こうとしていたのか、忘れてしまった」

ちょうどそのとき、屋根から二つ目の煉瓦が落ちてきて、またもやクズネツォフの頭に命中した。

「いたっ！」とクズネツォフと叫んで、頭を押さえた。手でさわってみると、二つ目のたんこぶができていたのわかった。

「何てことだ」とクズネツォフは言った。「私はクズネツォフ氏だ。私は家を出た。それは……、それは……、それは……。いったいどこへ行こうとしていたんだっけ？私はどこへ行くとつもりだったのか忘れてしまった！」

そのとき、上から三つ目の煉瓦がクズネツォフに向かって落ちてきた。クズネツォフの頭には三つ目のたんこぶができた。

「あいたたっ！」とクズネツォフは頭を押さえて叫んだ。「私はクズネツォフ氏だ。私は出た……、出た……、出た……。地下室から出たんだっけ？いや違う。樽から出たんだっけ？いやそれも違う。いったい、どこから出たんだっけかな？」

屋根から四つ目の煉瓦が落ちてきて、クズネツォフの後頭部に命中した。クズネツォフの後頭部に、四つ目のたんこぶができた。

「本当に何てこった！」とクズネツォフは後頭部をかきながら言った。「私は……、私は……、私は……。私は誰だっけ？自分の名前を忘れたってのか？何てこった。私の名前は何だったっけ？ヴァシリー・ペトウホフだったっけ？いや違う。ニコライ・サポゴフ？いや、それも違う。パンテレイ・リサコフ？いや違うなあ。私はいったい誰だっけ？」

ところがそのとき、屋根から五つ目の煉瓦が落ちてきて、クズネツォフの後頭部に命中したために、クズネツォフはすっかり何もかも忘れてしまい、「やっほー！」と叫びながら通りを走り去った。

* * *

どうかお願いします。もしも通りで、頭に五つのたんこぶがある人を見かけたら、その人に思い出させてあげてください。その人の名前がクズネツォフで、木工用の接着剤を買わなければならない、こわれた腰掛けを修理する必要がある、ということ。